

「ありがとう」や「ありがとうございます」を  
自分から伝えることができるようになるための指導・支援



## 学校コンサルテーションの流れ

5月	○学校コンサルテーションについての説明・打ち合わせ
6月	○第1回学校コンサルテーション(特別支援学級児童の観察・対象児童の決定)
7月	○保護者への説明・同意書の提出 ○ベースラインの測定 ○校内研修 「困った行動への理解と対応」(アドバイザー)
10月	○第2回学校コンサルテーション(支援方法の検討・実践計画書の作成)
11月	○実践と記録
12月	○第3回学校コンサルテーション(対象児童観察・効果の検証・今後の取組について)

校内での教職員間の情報共有(終礼・研修等)

保護者との情報共有(連絡帳・懇談等)

## 第1回学校コンサルテーション(6月)

- アドバイザーの先生方に特別支援学級の授業や休み時間の様子を観察していただいた。
- 日頃の支援で困っていることを共有し、対象児童を決定した。



## 児童の実態

Aさん（自閉症・情緒学級在籍）

- ・今年度から特別支援学級に入級した。
- ・気の合う友達や教師と話をすることが好き。
- ・「おはよう」や「バイバイ」は相手に聞こえる声で言えることが増えてきた。
- ・新聞のような形式的な文章を読むことが好き。

## 児童の実態

Aさん（自閉症・情緒学級在籍）

- ・失敗が苦手でこだわりが強く、敬語を使って話したり書いたりすることに抵抗がある。
- ・「ありがとうございます」「ごめんなさい」「失礼します」等を言うのが難しく、教師が促しても伝えられない。
- ・「ありがとう」や「ごめんね」等、短い言葉にしても言うのが難しい。

## 家庭での様子

思ったことをすぐ口に出してしまうから、  
友達に嫌な思いをさせてしまうのではと心配です…

でも、謝ったりお礼を言ったりするのは  
苦手で困っています。



## 保護者の願い

「ありがとう」や「ごめんなさい」を素直に  
表現できるようにしてほしい。

## 学校での様子

友達と仲良くしたいと思っているのに、  
「反省していない」「偉そうだ」と誤解される  
ような言動が続くのは残念だな…



## 担任の願い

場に応じた適切な表現を身につけ、友達と  
望ましい人間関係を築いてほしい。

## ベースラインの測定(7月)

特別支援学級ですごろくをするときに児童の様子を観察し、「ありがとう」や「ありがとうございます」と言った回数を記録した。

月日	内容	回数	メモ
7/7	すごろく (3人)	0	
7/13	すごろく (4人)	0	
7/19	すごろく (3人)	0 (1)	友達にサイコロを貸したのに「ん」しか 言えず。教師に2,3回促され てやっと言えた「ごめん」1回。

サイコロを渡してもらったときや  
順番を譲ってもらったときに注目  
して記録した。

- 形式的な文章が好きという児童の興味関心を生かし、行動契約をすることで、「ありがとう」を言いたくなるしかけ作りをする。
- やらされている感が生まれないように、児童と相談しながら取組の内容を決める。(自己決定の機会)
- 「おはよう」「バイバイ」等を自分から伝えられたときに褒め、友達や先生とコミュニケーションをとることに対する意欲を高める。
- 教師から積極的に「ありがとう」や「ごめんね」を伝えることで、言葉に対してポジティブな印象をもてるようにする。

## 指導目標

### 【目標1】

友達や先生に、「ありがとう」や「ありがとうございます」を自分から伝えることができる。

### 【目標2】

「ごめんね」「ごめんなさい」「失礼します」を伝えることができる。

望ましくない言動にばかり  
注目して同じ指導を繰り返す



望ましい言動が  
増える仕組み



# 実践計画書の作成(10月)

## アドバイザーからの助言

- ・「できたとき」と「できなかった」とき両方の手立てについて明記する。
- ・目標達成基準を決める。  
(例) 1週間の内、〇日以上できたら達成  
1か月の内、〇週できたら達成

具体的に書くことで、計画的な実践や振り返りに役立つ計画書にしましょう。



## 実践計画書の一部

実践研究計画書

実践研究タイトル

「ありがとう」や「ありがとうございます」を自分から伝えることができるようになるための指導・支援

幼児児童生徒の実態

1. 学年:

2. 対象児童イニシャル:

3. コミュニケーションの実態

- ・気の合う友達や教師と話をすることが好きである。
- ・敬語を使って話したり書いたりすることに抵抗がある。
- ・「ありがとうございます」「ごめんなさい」「失礼します」等を言うことに抵抗がある。教師が促しても言うのが難しいため、教師が言った後に続いて、言葉じりだけを言うようにしている。
- ・「ありがとう」や「ごめんね」等、易しい言葉にしても伝えるのが難しいことが多い。
- ・「おはよう」や「バイバイ」は、相手に聞こえる声で言えることが増えてきた。

指導目標等について

4. 指導目標

- ・友達や先生に「ありがとう」や「ありがとうございます」と自分から伝えることができる。
- ・友達や先生に「ごめんね」「ごめんなさい」「失礼します」等を伝えることができる。

5. 指導目標の現状の記録(ベースライン)

特別支援学級ですごろくをするときに児童の様子を観察し、「ありがとう」や「ありがとうございます」と言った回数を記録する。サイコロを取ってもらったときや、順番を譲ってもらったときに注目して記録する。7月に記録を3回とった。1回のすごろくにつき、5~10回程度「ありがとう」を伝えられる場面があったが、言えた回数はすべて0回だった。

6. 指導手続き

- (1)「おはよう」「バイバイ」等を自分から伝えられたときに褒め、友達や先生とコミュニケーションをとることに対する意欲を高める。

## 指導目標

### 【目標1】

友達や先生に、「ありがとう」や「ありがとうございます」を自分から伝えることができる。

## 目標達成基準

1日に10回以上「ありがとう」や「ありがとうございます」を言える日が、週に3回以上になると達成とする。

## 取組内容

(1) 行動契約ver1の実施

(2) 行動契約ver2の実施

## (1) 行動契約ver1

- 1日の内に、「ありがとう」や「ありがとうございます」を何回ぐらい言えそうか。
  - 目標を達成したときのお楽しみ会で何をしたいか。
- の2点について児童と相談する。

○「ありがとう」なら、2回ぐらいは言えそう…

○みんなで「おにぎりパーティー」がしたい!



行動契約書の作成

# (1) 行動契約ver1

- 児童に行動契約について説明をした。説明をするときは、成長を願っての取組であり、楽しく学ぶことを目的としていることを伝えた。
- 「1日に10回以上言えたらおにぎりパーティーをする」という長期目標を決めた。

- ① この契約書は、みなさんの成長と更なるジャンプアップを願って作成しています。成長がみられたときには途中で契約内容が変わることもあります。ご了承ください。
- ② 契約内容に無理がある場合は、いつでもご相談ください。改善いたします。
- ③ 楽しく学ぶことをモットーにしております。みなさまの成長とにっこり笑顔☺が何よりの元気の源です。一緒に楽しみましょう！

( ) 先生の名前 (印) の契約書類

■目標 ■「ありがとう」や「ありがとうございます」を自分から伝える。  
 ■目標ポイント ■1日に( 3 )ポイント以上

1日の目標ポイントに達したらおにぎりの具材券を1枚発行します！

※目標に届かなくても、1日に1ポイント以上獲得できた場合は、おにぎりシールを贈呈します。



	ありがと	ありがとう	ありがとうございます	合計ポイント	言った回数
月 11/6					
火 11/7					
水 11/8		T		4	2回
木 11/9	ちがた *	T	-	7	3回
金 11/10		IF		8	4回

ありがと → 1ポイント  
 ありがとう → 2ポイント  
 ありがとうございます → 3ポイント

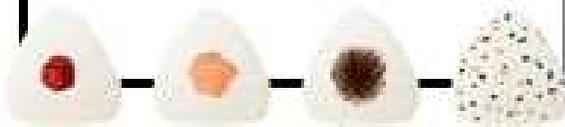
# (1) 行動契約ver1

「ありがとう」や「ありがとう」を言えた回数を数え、契約書の内容をもとにポイントを記録した。

「ありがとう」もポイントに含めることで、スモールステップで取り組めるようにした。

1日の目標ポイントに達したらおにぎりの具材券を1枚発行します！

※目標に届かなくても、1日に1ポイント以上獲得できた場合は、おにぎりシールを贈呈します。



ありがとう	→ 1ポイント
ありがとう	→ 2ポイント
ありがとうございます	→ 3ポイント

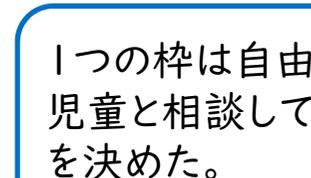
	ありがとう	ありがとう	ありがとう ございます	合計
月				
火				
水				
木				
金				

## (1) 行動契約ver1

- 1日の目標ポイントを達成したら、おにぎりパーティーで使える「おにぎりの具材チケット」を渡して評価した。
- 目標ポイントに達さなくても、1ポイント以上獲得した日は、おにぎり柄のシールを渡して評価し、意欲を持続できるようにした。



おにぎりの具材券 選べる6種!

ふりかけ (味は希望制) 	海苔 	鮭フレーク 
昆布の佃煮 	梅干し 	( ) 

1つの枠は自由にし、  
児童と相談して具材  
を決めた。

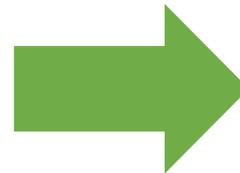
※画像はイメージです。

# (1) 行動契約ver1

児童と相談しながら1日の目標ポイントを変えつつ、取組を続けると、「ありがとう」や「ありがとうございます」を言える回数が増えた。

## 1週目 (目標3ポイント)

	ありがとう	ありがとう	ありがとう ございます	合計 ポイント	言えた 回数
月 11/6					
火 11/7					
水 11/8		T	4	4	2回
木 11/9	* ちがった *	T	4	3	7
金 11/10		IF	8	8	4回



## 3週目 (目標4ポイント)

	ありがとう	ありがとう	ありがとう ございます	合計	言えた 回数
月		正-		12	6回
火		IF		6	3回
水		IF		8	4回
木				祝日	
金				遠足	

# 行動契約ver1③

さらに、「ありがとう」を言える回数が増えるように、「ありがとう」を伝える意義について考えるソーシャルスキルの授業をした。

④「ありがとう」の伝え方を研究しよう!

ボールを使ったな

Aさん

先生

ありがとうコース

無言コース

わたしてあげてよかったです。

「いいよ」という気持ち  
・いやにならない

なんなんだ、せかすわたいのに...  
いやだな...つかれているか?

ありがとう

を伝えるポイント

ありがとうを伝えるチャンス

① 聞こえる声で  
② すぐに  
③ 相手の顔を見る  
④ 名前をつける理由をつける

自分も相手もいい気分

友達とけんかをしたあと、「大丈夫? 話聞こうか?」と言ってくれたとき。

大丈夫?

給食の準備で並んでいるとき、友達が順番をゆずってくれた。

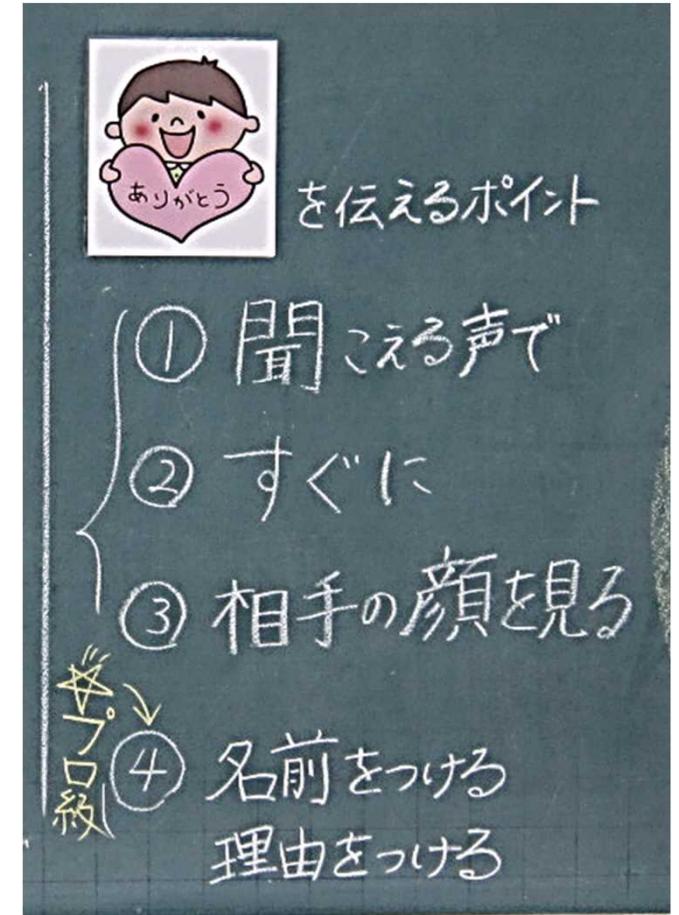
どうぞ。先に食べていいよ。

場面演技やカードゲームを通して、「どんなときに」「どんな風に」ありがとうを伝えると良いかを考えた。

## (1) 行動契約ver1

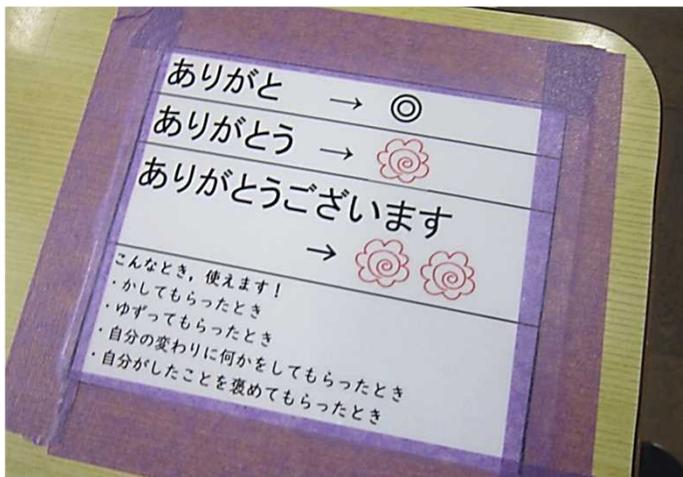
○2・5年生の合同で授業をすると、上学年の児童から「理由や名前をつけて言うと良いよ!」という意見が出された。

○授業の後、児童が理由をつけて「ありがとう」を言えるようになってきた。「ありがとう」を言える回数が増え、ますますやる気が高まった。



## (1) 行動契約ver1

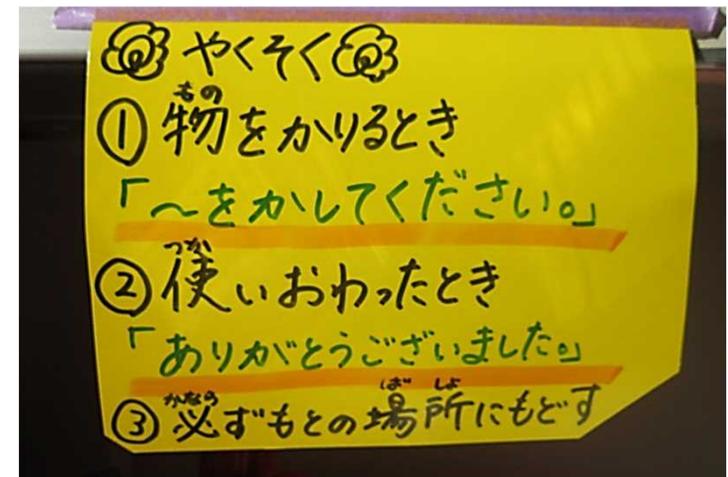
ソーシャルスキルの授業で学んだことを生活の中で生かせるように、望ましい言動を具体的に記したカードを掲示した。



児童用机



教室壁面



貸し出し用文房具置き場

○「ありがとう」を児童が言えなかったときは、「今は、ありがとうチャンスだよ。」と1度だけ声をかけて促すようにした。

○それでも言えない場合は無理強いをせず、教師が言った後に続いて言葉尻だけを言うようにした。

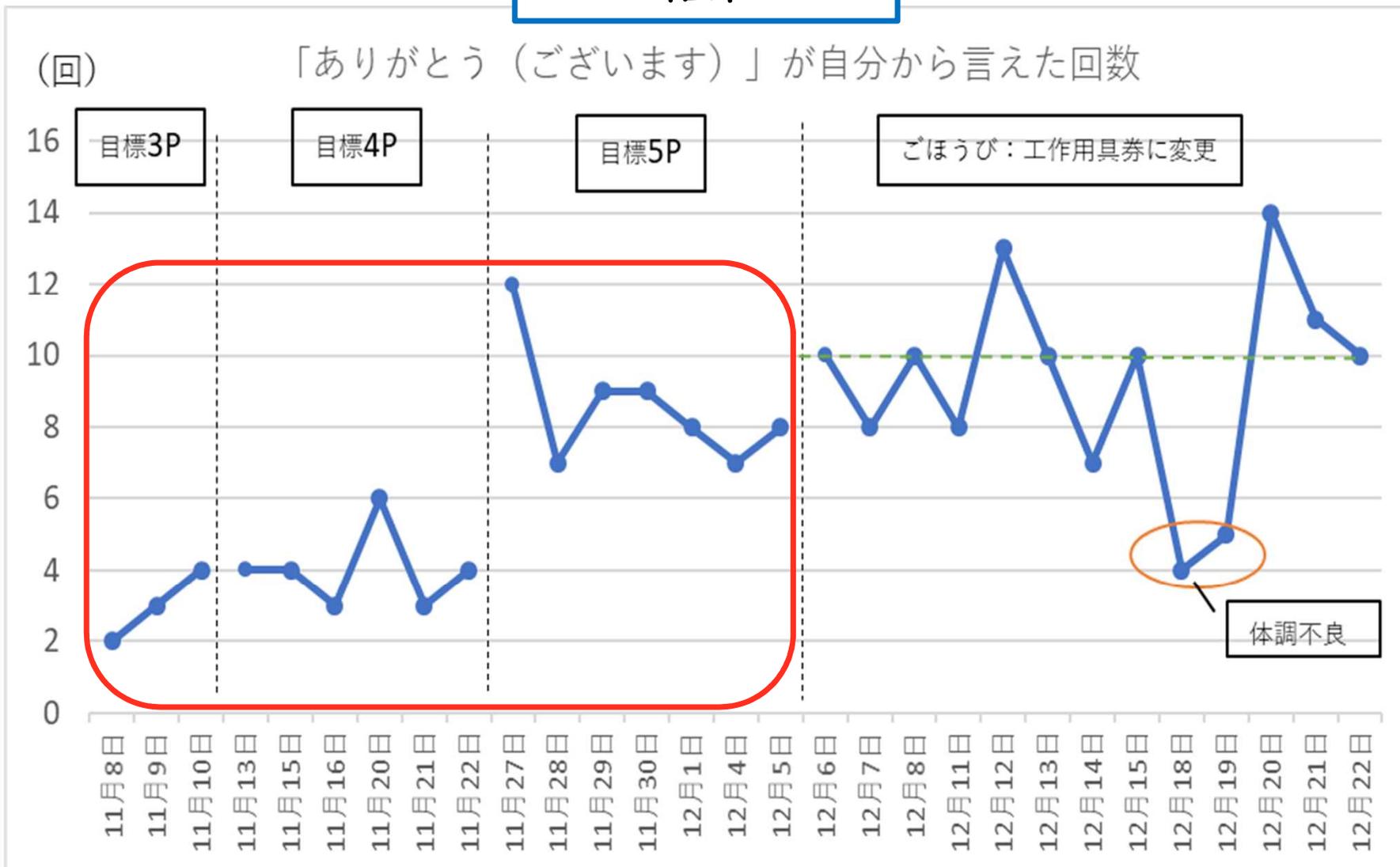
# (1) 行動契約ver1

ソーシャルスキルの授業を生かしながら取組を続けると、「ありがとう」や「ありがとう」を5回以上言える日が続くようになった。

## 4週目 (目標4~5ポイント)

	ありがとう	ありがとう	ありがとう ございます	合計	言えた 回数
月		正正T		24 <small>ok 6回</small>	12回
火	-	正-		13 <small>ok 2回</small>	7回 <small>(7回中6回)</small>
水		正F		18 <small>ok 3回</small>	9回
木		正F		18 <small>ok</small>	9回
金	T	正T		14 <small>ok</small>	8回

# 結果



## (1) 行動契約ver1

目標の1日10回以上を達成したため、おにぎりパーティーを開いた。



- 管理職や養護教諭に、調理実習をするための許可をとる役割を任せることで、担任以外にも「ありがとう」を伝える機会をつくった。
- 先生方に作ったおにぎりをプレゼントすることで、いろいろな先生から「ありがとう」と言ってもらえる機会となった。

## 第3回学校コンサルテーション(12月)

### 新たな課題

- ・「ありがとう」を言える回数が増えたが、1日10回以上の日が週に3回という目標達成基準は達成できていない。
- ・行動契約を辞めたらスキルが定着しないのではないかという不安があり、今後の支援の仕方を悩んでいる。



- 新しいご褒美に変えると、新鮮な気持ちでやる気が復活することを期待できる。
- ポイント制ではなく、回数ごとにご褒美の量が変わる契約内容にすると、「1日10回以上」という目標が今より意識できるのではないか。
- 「ありがとうございます」だけを目標にするのは負担感が大きい。続けるなら「ありがとう」の回数を増やす方向で取り組むとよい。



## (2) 行動契約ver2

- 2回目のコンサルでの助言をもとに、工作用具をご褒美とする新しい行動契約を考えた。
- 行動契約ver2を始める前に、児童と一緒にこれまでの記録用紙を見ながら成長を振り返った。そして、新しい行動契約書の内容を提案した。

### 工作の材料券 選べる8種！

<p>ガムテープ ※この券5枚で 1つ (予算の関係で2週間に 1つをお願いします。)</p> 	<p>割りばし</p> 	<p>紙コップ</p> 	<p>ビー玉</p> 
<p>食品トレー</p> 	<p>ストロー</p> 	<p>輪ゴム</p> 	<p>その他 (例) ヤクルトの容器</p>

※画像はイメージです。

- こんなに言えるようになったんだなあ。
- 今度も面白そうだから契約するよ！



## (2) 行動契約ver2

○新しい記録用紙は、目標ポイントの欄を「目標回数」に変更し、児童があまりつかわなくなった「ありがとう」の記載を無くした。

○工作用具は教室のロッカーに並べ、必要なときに工作用具券と引き換えられるようにした。

( ) と (印) の契約書類

■目標 ■「ありがとう」や「ありがとうございます」を自分から伝える。

■目標回数 ■1日に( 10 )回以上

合計回数に応じて、工作用具券を発行します！ (例)  ※詳細は下の表をご覧ください。	「ありがとう」「ありがとうございます」		合計回数
	月		
	火		
	水		
	木		
	金		

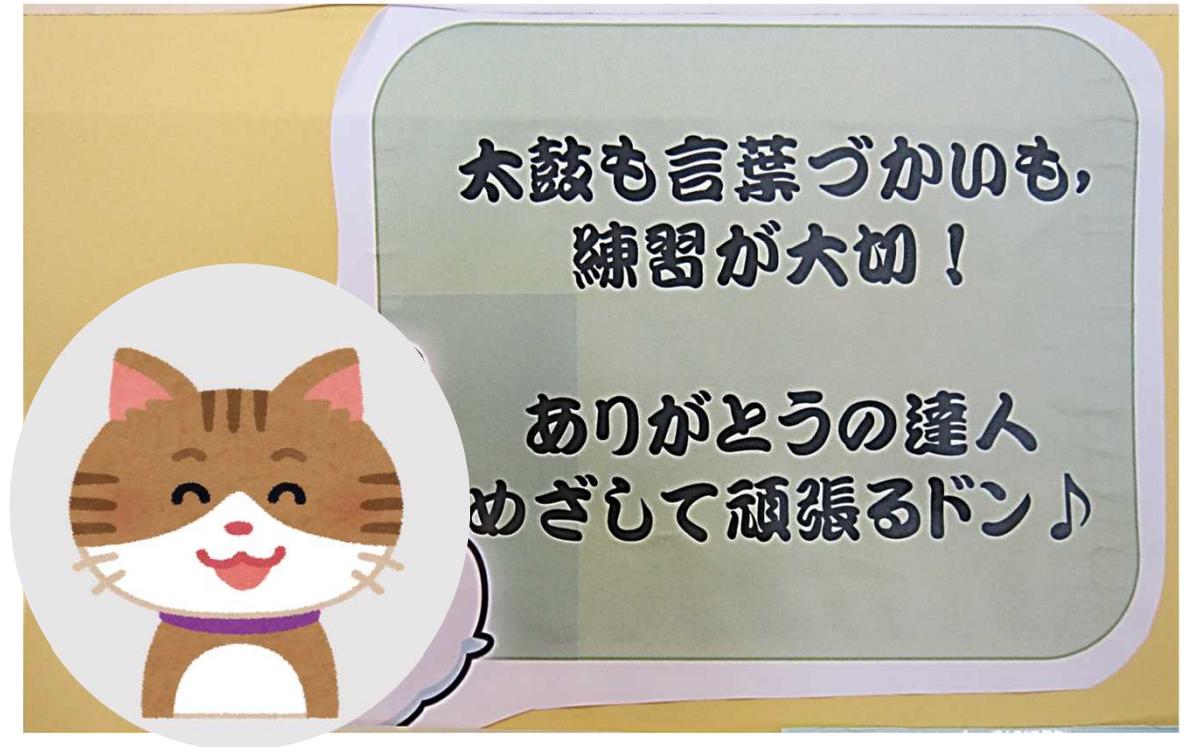
十段コース(かんたん) 1回～5回 チケット1枚
名人コース(むずかしい) 6回～9回 チケット2枚！
達人コース(鬼) 10回以上 チケット3枚！



## (2) 行動契約ver2

児童の好きなゲームの内容やキャラクターを、契約書と掲示物に取り入れることで取組への意欲を高められるようにした。

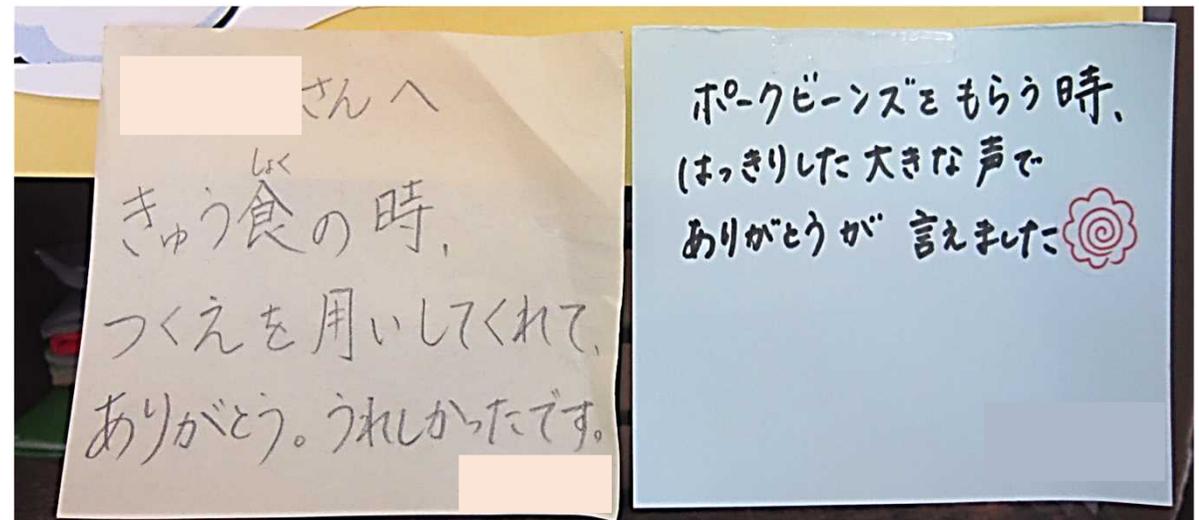
十段コース(かんたん)
1回～5回 チケット1枚
名人コース(むずかしい)
6回～9回 チケット2枚！
達人コース(鬼)
10回以上 チケット3枚！



## (2) 行動契約ver2

- 管理職・養護教諭・交流学級担任・他の特別支援学級担任等と連携し、児童が「ありがとう」を言えたときに報告してもらうようにした。
- 交流学級の友達に、「ありがとう」を自分から伝えることを目標にしていると紹介した。すると、友達が「〇〇さんが、ありがとうって言ってくれたよ!」と報告してくれるようになった。

交流学級・職員室・保健室でも、スムーズに「ありがとう」が言えるようになってきた。



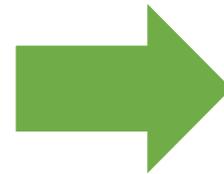
## (2) 行動契約ver2

○1日に10回以上「ありがとう」を言える日が続くようになった。

○6週目に、「1日10回以上の日が週に3回」という目標達成基準を達成できた。

5週目  
(目標10回以上)

	「ありがとう」 「ありがとうございます」	合計回数
月		
火		
水	正正	達成 10枚 3枚
木	正下	8枚 1枚 2枚
金	正正	達成 10枚 3枚



6週目  
(目標10回以上)

	「ありがとう」 「ありがとうございます」	合計回数
月	正下	8枚 2枚
火	正正下 職室	13枚 3枚
水	正正(正)	10枚 + 5枚 3枚
木	正下 5年	7枚 2枚
金	正正	10枚 3枚

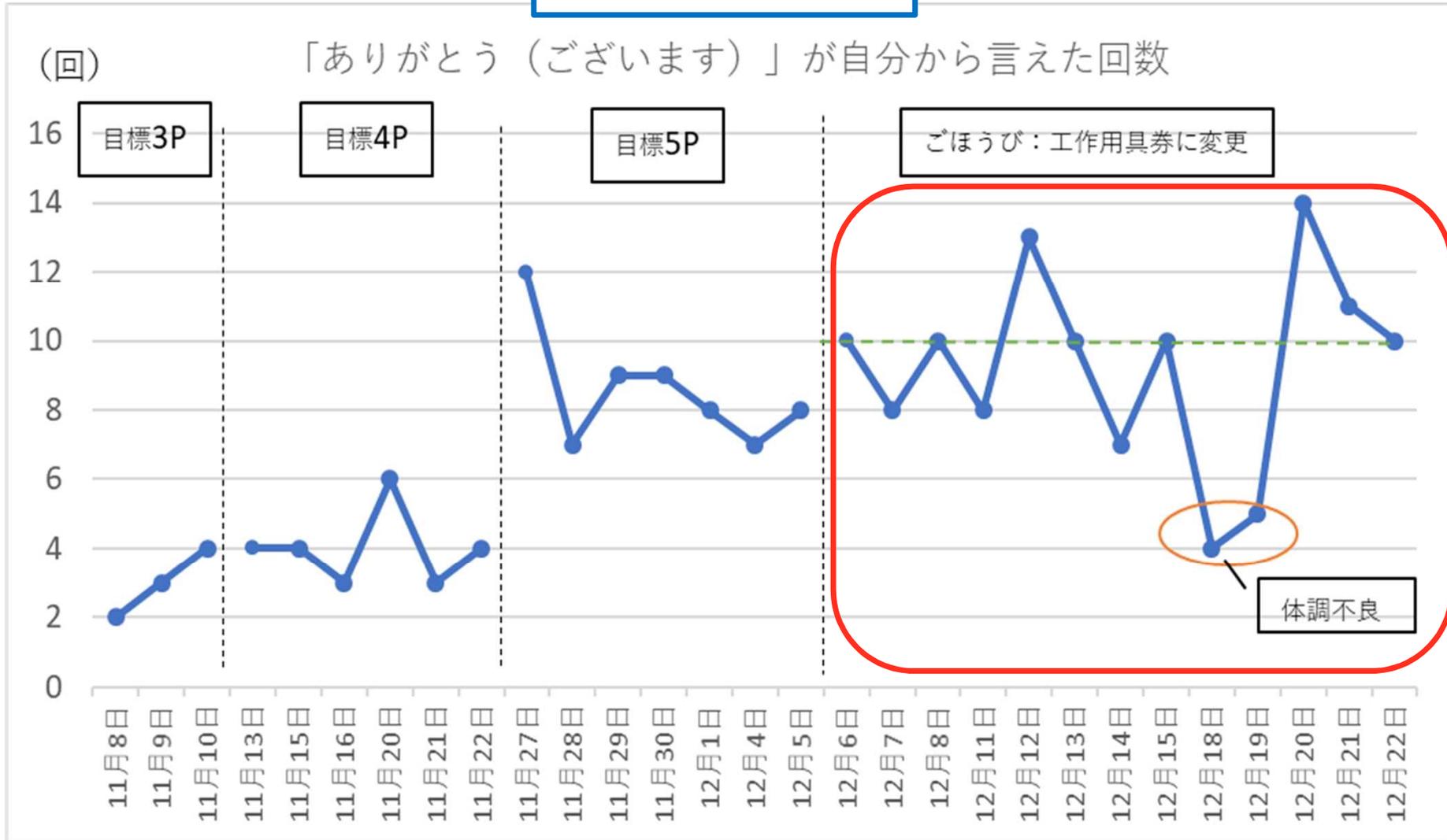
## (2) 行動契約ver2

7週目も、1日に10回以上言える日が3回あり、目標達成基準を達成できた。

### 7週目 (目標1日10回以上)

	「ありがとう」 「ありがとうございます」	合計回数	
月	IF ※体調不良のため	4	1枚
火	正 ※	5	1枚
水	正正F 感謝の心 1人1人に伝える	14	3枚
木	正正-	11	3枚
金	正正 冬休み前集 の参加の仕方	10	3枚

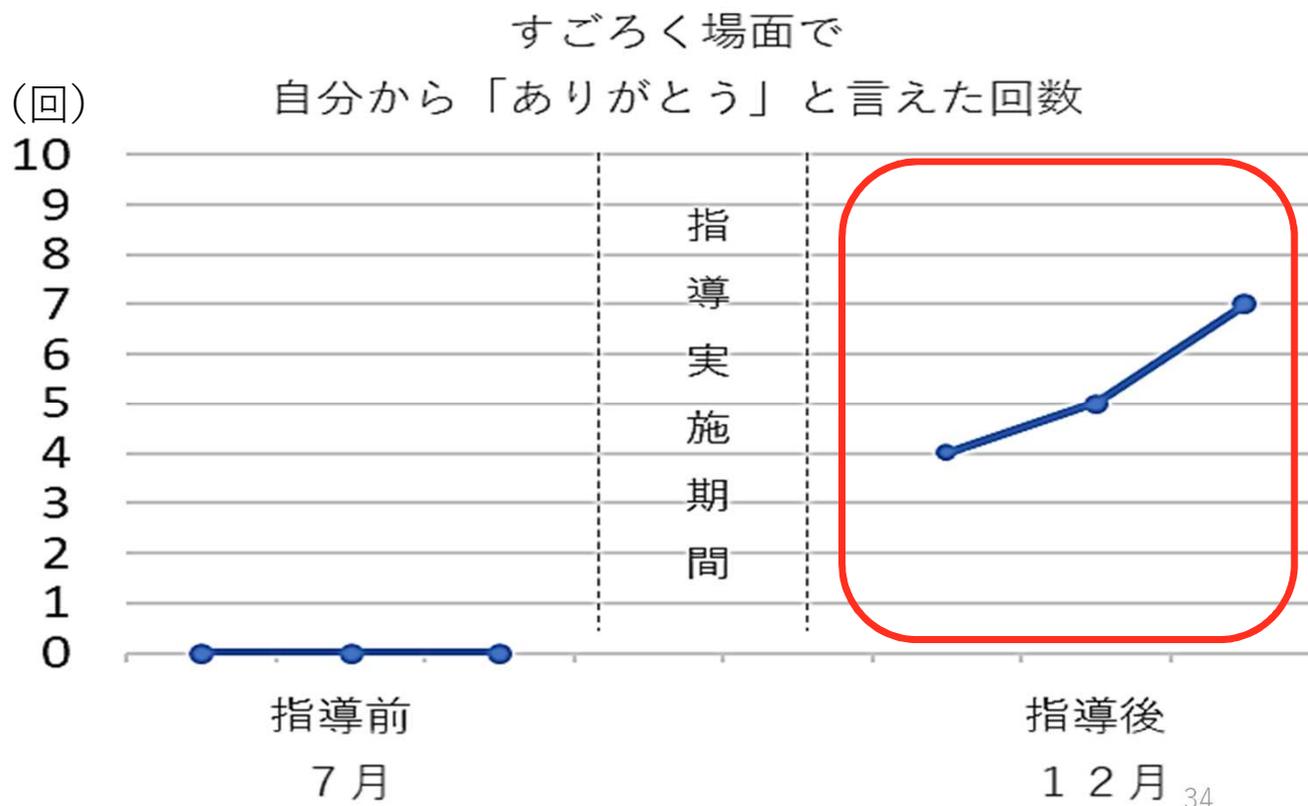
# 結果



# ベースラインとの比較

行動契約Ver1を実施する前にとったベースラインの記録と、行動契約Ver2の実施後にベースラインと同じ方法でとった記録を比較しました。

月日	内容	回数
12/21	すごろく (4人)	4
1/9	すごろく (3人)	5
1/11	すごろく (3人)	7



## 取組のポイントと成果

### ①興味関心に応じた、やってみたくなるしかけを作る

⇒ご褒美を目的に取り組むうちに成功体験が増え、自分の気持ちを伝えることや周りの人から反応が返ってくることに、児童がメリットを感じられるようになった。

⇒コミュニケーションをとることに自信をつけ、「ありがとう」だけでなく、「ごめんね」や「失礼します」も以前よりスムーズに言えるようになってきた。

## 取組のポイントと成果

②できないことばかりではなく、今できていることに注目できる手立てを考える

⇒記録をすることで、児童は自分の成長を視覚的に実感できた。教師も児童の些細な成長を見逃すことがなくなり、褒める機会が増え、児童とよりよい関係を築けた。

## 取組のポイントと成果

### ③児童と話し合いながら取り組む

⇒ 選択肢を示しながら話し合い、教師と児童が目標を共有することで、決めたことにお互いに責任をもって取り組むことができ、手立てがより効果的になった。

学校コンサルテーションをしてよかったこと

①教職員間の情報共有が活発になり、児童への適切な支援が増えた

⇒目標や取組、児童の成長について共有することで、適切な支援が増え、児童のよりよい成長に繋がった。

⇒教員同士で話をするすることで、支援が上手くいかない日があっても、「そんな時もあるよね。」と前向きに捉えられた。



学校コンサルテーションをしてよかったこと

## ②アドバイザーの定期的な観察と具体的な助言が、客観的な評価として役立った

⇒ 定期的な観察は、担任には気づきづらい児童の変化を評価してもらう良い機会となった。

⇒ 児童の実態に合わせた支援方法を一緒に考えてもらうことで、児童も教師も楽しみながら無理なく取り組むことができた。



学校コンサルテーションをしてよかったこと

③計画的で具体的な支援について学ぶ機会となった。

⇒行動契約の目標を実態に合わせて変えると、他の児童の支援にも応用できた。



## 今後取り組みたいこと

- 児童の実態に合わせて、早い時期に学校コンサルテーションを行う等、時期や実施回数を検討する。
- 学校コンサルテーションを通して学んだ支援方法を、特別支援学級担当教員が変わっても引き継ぐことができるような仕組みを作る。
- 通常の学級児童の困った行動についての学校コンサルテーションも実施していきたい。